

さじうるしけんきゅうかい

佐治漆研究会

～六(ろく)しの里と佐治漆復活による地域活性化～



佐治漆の森
(防獣柵設置によりシカの食害を軽減)



親子による植樹祭
(地域住民との協働)



公立鳥取環境大学での
漆塗体験ワークショップ

経緯

- 佐治漆は、江戸時代初期に本格的な生産が始まり、「天下一品の佐治漆」として、全国的にも有名であったが、昭和40年を境に衰退。
- 国産漆が欠乏する現状を踏まえ、良質な佐治漆の生産・流通の復活とブランド化を図るため、平成28年に地元有志による「佐治漆研究会」を設立。

取組内容

- 「天下一品 良質の佐治漆」の生産・流通の復活とブランド化、6次産業化による「漆の里づくり」の推進に向け、現存する漆を分根して増殖。
- 「佐治漆の森」づくりとして、果樹園や畑の跡地を利用し、1000本の植栽を目標に現在200本を育成。
- 漆器の製造や佐治和紙とのコラボによる商品化、漆産業に携わる技術者の育成、確保。
- 地元小学生、中学生、高校生、大学生を対象とした漆掻き・漆塗り体験や消費者を対象とした漆料理教室・講座・ワークショップ等を開催。

活動の効果

- 新聞やテレビで佐治漆の復活に向けた活動が取り上げられ、市民の関心が増加。公立鳥取環境大学では佐治漆に関心を抱いた環境学科の学生が漆塗りのワークショップを体験。
- 県立鳥取西高校において「漆セミナー」を開催し、佐治漆を研究した学生がその成果を日本地理学会で発表し、理事長賞を受賞。
- 学生向けの体験活動、公民館での講座等の開催により、佐治漆の知名度が向上。「佐治ふるさと祭り」での漆塗り体験教室の開催、活動内容の展示により、地元住民の理解が増進。

応募団体からのアピール・メッセージ

佐治町では、「五(ご)しの里」(和紙、梨、星、佐治川石、佐治谷話)という地域おこしを行っており、当研究会では、これに佐治漆を加えた「六(ろく)しの里」づくりを推進する。

また、地元では、佐治漆生産の期待も大きく、欠乏する国産漆生産の一翼を担えるようになりたい。基盤ができれば、雇用が増え、新たな漆産業が生まれ、観光産業にも繋がり、過疎の町は活性化すると確信している。

住所・電話番号・SNS等

鳥取市佐治町津野 Tel: 0858-75-2228 <https://sajiurushi.wixsite.com/sajiurushi>

はまゆやま たねがいけかっせいかいいんかい

浜湯山・多鯰ヶ池活性化委員会

～行政にお願いする前にまず、自分たち団体の出来ることから始める！～



多鯰ヶ池年末花火大会の自費開催



福部駅の利用客減少ハドメ・話題性ある駅舎

経緯

- 山陰海岸ジオパークは平成22年10月に世界ジオパークネットワークに認定され、鳥取砂丘と多鯰ヶ池がジオサイト認定。
- 鳥取砂丘は日本でも有数な観光地で多くの観光客が訪れていたが、近くの多鯰ヶ池を訪れる観光客は極端に少なく、ジオサイトに相応しい美観整備、インフラ整備を進め、観光客の集客向上を目的に活動。

取組内容

- ジオサイトへの受け入れに恥じない環境を整える活動。
- 多鯰ヶ池のある福部町全体の活性化を目的として、特に将来、福部町を担う子供達へ福部町の成り立ち、今に残る歴史遺産、史跡などに関する出前講座の実施。
- 町全体の共通課題でもあるJR西日本「福部駅」の活性化を図るため、福部らしいイラストを描くなど、話題性のある駅前の環境整備に取り組む。
- 令和4年度、多鯰ヶ池年末花火大会を自費開催。

活動の効果

- 組織の出身集落「浜湯山」の活性化を目的に活動範囲を拡充、集落内の耕作放棄地を活用したスイカ農園や大賀ハス農園を整備。
- 豊かな福部町になった歴史、先人達の砂と水との戦いで梨やらっきょうの一大産地となった歴史について、子供達と1冊の「福部歴史読本」を作成し、歴史講座を実施。
- 福部駅の活性化活動は持続可能な活動となるよう、福部町内の各種団体でそれぞれ活動テーマを分割して取り組み中。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の課題に向けて活動の協力も得やすいが、福部町内を活性化するためには「まちづくり協議会」や「区長会」等の町全体が見える立場の組織が行政とともに調整して進めてもらいたい。

住所・電話番号・SNS等

<https://www.tanegaike.com/>

くらししたいけんがたきょういくりょこうゆうちきょうぎかい

倉吉市体験型教育旅行誘致協議会

～いなかといいなか セキガネたいけん～



本格的に再開した民泊体験



受入家庭同士の体験勉強会

経緯

- 過疎化・高齢化が進む中山間地域で民泊を利用した農業体験ツアーを商品化し、都市部からの誘客や都市部の住民や学校との交流、住み慣れた地域に誇りと愛着を持ち、安心して住み続けられる地域の構築を図る。
- 地域活性化や農家等の所得向上を狙い、農村家庭への民泊交流体験活動を実施。

取組内容

- 修学旅行を中心に、主体は農家民泊体験の受入。魚つかみどり、竹細工、牛飼いや等の農村生活を体験できるプログラムを実施。
- 令和5年度の民泊体験受入の再開に際し勉強会や検討会に女性・高齢者が積極的に参加。
- コロナ禍で受入できない期間は、感染症専門の大学教授を招き、講演会、講習会の開催、受入家庭同士で勉強会や検討会を実施し、感染への対策を行った。

活動の効果

- コロナ禍は講演会、講習会、勉強会を実施し、受入再開の準備を進め、令和5年度はシーズン通じて農村生活体験、民泊体験を再開し、約1,000人を受入れた。
- 訪れた生徒、先生、保護者から感謝の言葉をいただき、改めて人の交流の素晴らしさを実感した。
- 民泊体験受入家庭の多くは高齢者であり、受入の中心となる婦人層や高齢者の活躍の場にもなっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

コロナ禍でも、教育旅行民泊体験の需要があった。今後もコロナ感染症の状況を注視しながら、教育旅行誘致と受入を継続する。

インバウンドの教育旅行も令和5年度1校受入。今後、本格的な再開を目指す。

住所・電話番号・SNS等

倉吉市関金町関金宿1139 Tel:0858-45-1122

いっばんざいだんほうじんさかいみなとしのうぎょうこうしゃ

一般財団法人境港市農業公社

～和綿「伯州綿」を活用した地域活性化事業～



【ぬくもりの綿リレー】地域の人たちで育てられたぬくもりの綿が、次世代へまごころのバトンをつないでいます



催し「てぬぐいひらひら」

経緯

- 境港市内の遊休農地を解消するため、江戸時代から栽培される伝統的な地域資源である和綿「伯州綿」の再興を目指し、平成20年度から栽培を開始。
- 伯州綿は、鳥取県西部・弓ヶ浜の地で織り継がれてきた「弓浜緋（ゆみはまがすり）」の原料として、地域で守られてきた。

取組内容

- 栽培サポーター制度を導入し、地域住民や地域おこし協力隊員とともに農薬や化学肥料を使わない綿づくり。
- ぬくもりの綿リレー（上記参照）
- 民間事業者とともに伯州綿を使用した商品開発や販路拡大を行い、伯州綿のブランド化に取り組む。
- 小学校等での授業や体験活動の支援および普及活動。
- 毎年秋に催し「てぬぐいひらひら」の実施。

活動の効果

- 催し「てぬぐいひらひら」では、毎年1,000人以上の来場者があり、令和4年度には第27回ふるさとイベント大賞ふるさとキラリ賞を受賞。
- 栽培サポーターの人数は年々増加傾向にあり、任務を終えた地域おこし協力隊員も定住し、伯州綿に関わる事業を営んでいる。
- 遊休農地の解消や、赤ちゃんへのおくるみのプレゼントによる子育て支援、百歳を迎えられた高齢者へのひざかけのプレゼントによる高齢者支援など、多面的な効果が生まれている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域で繋ぐ、伝統の綿「伯州綿」。土地に芽吹いた小さな命を地域の人々が一丸となって大切に育て、ぬくもりの綿を活用した地域活性化を図っています。

住所・電話番号・SNS等

境港市上道町3000 Tel:0859-47-1049 <http://hakushu-cotton-sakaiminato.jp/>



なかのこうぎょそんいちじっこういんかい

さかいみなと中野港漁村市実行委員会

～沿岸漁業は地域の宝！漁業者が鮮魚を直売！～



大盛況の中野港漁村市



高校生が未就学児に境港サーモンを見せる

美保湾ブランドロゴ

経緯

- 境港市では、沖合漁業で獲れる魚種が主体で、沿岸漁業(小型底曳網)で獲れる少量多品目の魚種は余り注目されていなかった。
- この状況を憂いた地元の飲食店が、沿岸の魚種にも注目してしてもらうため、平成25年に漁協の協力の下、実行委員会を立ち上げ、プロの漁師が消費者に直接鮮魚を販売する「中野港漁村市」をスタート。

取組内容

- 漁村市を年4回開催し、漁業者がお手頃価格で鮮魚を直売。
- 美保湾ブランドロゴの作成、ふるさと納税返礼品としての出品など付加価値を付けたPRや販売による沿岸漁業の振興。
- 鳥取県立境港総合技術高校と連携し、生徒が漁村市を課題研究の場として活用し、神経締めの実演、直売・試食支援などを担う。
- 市内保育園での食育活動。

活動の効果

- 漁業者は対面販売に不慣れながらも回数を重ねるごとに手慣れて、消費者と直接言葉を交わしつつ、魚の特徴、調理方法を伝え、効果的に魚食普及が図られている。
- 漁村市を経験した高校生の中には、卒業後に地元の鮮魚仲買や水産加工業への就職や、調理・栄養系に進学するなど、水産関係人材も広がりを見せている。
- 未就学児童や高校生に漁村市を体験してもらうことにより、未来に向けた人材育成につなげている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後、漁村市では、魚に限らず白ネギなどの農産物、弓浜緋などの地域産品も販売し、「中野商店街」として地域産品と地域住民のふれあいの場としていきたい。

住所・電話番号・SNS等

さかいみなと中野港漁村市実行委員会事務局(鳥取県漁業協同組合境港支所)

Tel: 0859-44-0225

とくていひえいりかつどうほうじん さきも

特定非営利活動法人 未来守りネットワーク

～海・川・山をつなぐ(環境保護・教育・地域再生)～



「海藻肥料」で栽培した海藻米の稲刈りイベント



「海鮮・山鮮 まげなもん祭」の様子

経緯

- 時代の変革により中海(なかうみ)干拓が中止となり、水質悪化が進んだ中海を再生させるとともに、若手地元企業人が環境保護・教育・地域再生を行うため、平成16年に当法人を設立し、活動を始めた。
- 中海再生プロジェクト「よみがえれ中海」をテーマに、環境保全・再生活動に取り組む。

取組内容

- 中海や宍道湖(しんじこ)で異常繁殖した紅藻類の「オゴノリ」等を刈り取り、肥料製造会社と連携し、海藻肥料として活用(SDGs)。
- 魚類・水生生物が産卵し、稚魚や幼生のすみかとなるアマモ場の再生。
- 海藻農法(海藻肥料を使用した農法)による「海藻米」の田植え・稲刈りイベント。
- 海藻農法で栽培された農作物や水産物をPR・販売するイベント「海鮮・山鮮まげなもん祭」を年3回以上開催。
- 海藻農法で出来た野菜類や米などに親しんでもらうため、「境公民館まつり」へ農作物を提供。

活動の効果

- 毎年、紅藻類の「オゴノリ」等を刈り取ることで、水質浄化や漁業資源回復に寄与。
- 刈り取った海藻を有機肥料(海藻肥料)として活用、現在、海藻農法の取組面積は96haまで拡大。境港市の市民農園や新潟県の水稲・アスパラ、岡山県のシャインマスカットなどにも採用されている。
- 境港市では食育の観点から「海藻米」を学校給食に採用。また、境港市、日野町、日南町、伯耆町では、子ども達が海藻米の「田植え・稲刈り」に参加し、食育につながっている。
- 中海の水質浄化、魚介類の産卵・育成場のための「アマモ類」の種子採取(6月)・移植活動(11月)を通じて、環境教育につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

SDGsの観点から宍道湖・中海の水質浄化のために刈り取った海藻を転換した有機肥料(海藻肥料)を使った農作物栽培を国・県・市町村と連携して、拡大させたいです。

住所・電話番号・SNS等

境港市大正町38 Tel:0859-47-4330 <http://www.npo-sakimori.net/>

ぶ
ワカメ部

～秘密の特産品『天然・板ワカメ』を世界に発信！～



板ワカメの大きさ世界一になった瞬間



レジェンド(ベテラン生産者)から学ぶ板ワカメ作り講座

経緯

- 山陰地方の定番食材である板ワカメは、全国的な知名度は低いが、希少な天然ワカメを天日干したものだ。近年は生産者が減少してきた。
- 岩美町網代地区に50～60軒あった生産者は、わずか1軒のみとなったため、板ワカメを通じて地元を盛り上げたいとワカメ愛好家が集まり、平成30年にワカメ部を発足。

取組内容

- 令和元年から「ワカメフェス」を開催。世界一となる畳8畳分の板ワカメの作成、個性的なメンバーの特技を活かしたワカメソングやワカメ落語の披露、ワカメアクセサリー等の開発により、地元板ワカメの魅力をPR。
- 老舗せんべい屋の人気商品「板わかめせんべい」の復活をサポート。
- 食べたことがあっても、板ワカメを作った経験者は少ないため、板ワカメ作りワークショップによる食育の実践。

活動の効果

- 地域や第一次産業、あるいは地球に存在する課題の解決に挑戦する生産者を表彰する「ポケマルチャレンジャーアワード」において、令和3年に「特別賞」を受賞。
- 板ワカメの生産者減少より、材料が手に入らなくなったため、生産を中止していた「板わかめせんべい」を鳥取市内の有名な老舗菓子店「たまだ屋」と連携して復活。
- 食文化の継承を目的に、板ワカメ作りワークショップを実施。地元小学校の校外授業では、地元レジェンドの協力も得て、令和4年からワカメ部の代表が講師を務めている。

応募団体からのアピール・メッセージ

ワカメ部は、鳥取の特産品・板ワカメを斬新な情報発信、エンタメ化によってPRする活動を通じて、板ワカメの認知度アップと生産者拡大を目指しています。講演や出展なども出来ますので、お気軽にお声がけください。

住所・電話番号・SNS等

メールアドレス:wakame.club.6810074@gmail.com

奨励賞

りょう さい かい
良 菜 会

楽しく、仲良く、元気よく！～食で繋ごう～



シニア・移住者など多彩で多才なメンバー



イベントへの出店

野菜宅配便

経緯

- 30年ぶりにUターンした現会長が、今まで気づけなかった地元の良さを再認識し、地域の活性化や元気づくりに役立ちたいとの思いから、周囲の住民に呼びかけ、平成22年に本会を立ち上げ。
- 発足当時7名であった会員は、現在25名に増加し、活動内容や範囲も拡大。

取組内容

- 会員の能力・経験を活かし、協力しながら、
- 地域で穫れた野菜、米、花卉の出荷・販売
- 自家栽培米の麴での手作り味噌の製造・販売
- ミニデイサービス等への弁当・料理の提供
- イベントへの出店、加工品・総菜の通販、伝統食文化の継承
- 生産技術の向上と情報の共有
- 農業体験や企業・団体等との交流会等を実施。

活動の効果

- 直売所への野菜等の出荷に加え、令和2年度から野菜宅配便として県外にも提供し、美味しいと好評。また、関係者からの要望等を踏まえ、ミニデイサービスへの昼食（年間約950食）や森林セラピー体験者への弁当、会食料理（年間約300食）を提供。
- 手作り味噌の町内の学校給食での活用やふるさと納税返礼品での採用。
- SNSの活用やメディア（新聞・TV取材等）での発信により認知度がアップ。など、会の活動が、会員の生きがいとなり、心の拠り所となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

新たな加工品の開発、担い手の育成、伝統的な郷土料理の継承など、良菜会の活動を地域にもっと活かしていきたい。

また、SNSを活用し情報を発信中。「いいね」「フォロー」をお願いします。

住所・電話番号・SNS等

八頭郡智頭町芦津 Tel: 0858-75-2492 <https://www.facebook.com/ryosaikai/>

奨励賞

いなかおうえんせんたい みとく

田舎応援戦隊 三徳レンジャー

～三朝町のおいしいお米を全国へ～



それぞれのカラーで地域の魅力を発信！



「はい、どうぞ！」笑顔を添えて販売しています

経緯

- 平成21年4月発足。鳥取大学の学生が農山村へ行き、農業ボランティアを行う「農村16きっぷ」という団体から派生した。
- 農村16きっぷが三朝町三徳地区へボランティアに行った際、農家の方から「休耕田を利用して自分たちの力でお米を作ってみないか」と声をかけられたことをきっかけに活動が始まった。

取組内容

- 紙マルチを用いた除草剤を使わない農法、殺虫剤の使用回数を減らすなど環境に優しい米づくりに挑戦。
- 収穫した米は、玄米や精米として販売するほか、米粉加工品として県内外へ販売。
- 「田舎応援戦隊」の活動では三徳山の炎の祭典や御幸行列などに参加し、地域との交流を活発に行った。また、三朝温泉観光大使として、三朝温泉の魅力発信にも尽力。

活動の効果

- メンバーは米の生産、加工、販売まで直接携わっており、「ヒエ取り合宿」などの実践を通して得られる学びが農業に対する理解と地域との関わりの深化に繋がっている。
- 令和2年度には、食と農林漁業大学生アワードにおいて最優秀賞並びに日本海新聞地域貢献賞を受賞した。
- 活動を広めるために、SNSを活用した広報活動を強化し、鳥取県内外への販路を開拓したい。また、地域との交流を通じ、地域をさらに盛り上げていきたい。

応募団体からのアピール・メッセージ

環境に配慮した農業の形を模索しながら、より多くの方に私たちの育てたお米のおいしさを伝え、三朝町をさらに盛り上げていきたい。

住所・電話番号・SNS等

鳥取市湖山町南1丁目246 代表:柳 メールアドレス:mitokuranger.mail@gmail.com

な いし はま

鳴り石の浜プロジェクト

～「よく鳴る♪良くなる」鳴り石の浜～



小学生に対して漂着ゴミの分別講座



鳴り石祭り名物 海に沈む夕日を見る来場者

経緯

- 平成23年に「山陰道東伯・中山道路」が開通したことで、町内の交通量が減少し、幹線沿いの商店は売上激減、廃業等大きな影響を受けた。
- この「まちの危機」に対し、地域の有志でプロジェクトを発足。「鳴り石の浜」に着目し、自然を通じ、地域の活性化と故郷の素晴らしさを後世へ伝える活動を開始した。

取組内容

- メンバーによる海岸清掃活動のほか、親子連れや県外者等も参加できる大規模「ビーチクリーン」を年4回開催。
- 鳴り石の浜を地域の人に親しんでもらう「鳴り石祭り」を毎年夏至に近い土曜日に開催。
- 阪神大震災に由来する「はるかのひまわり」を地域の小学生、特別支援学校生徒と育て、景観保全に寄与。
- 鳴り石海岸の石が波で動く様子やその音を物事が「良くなる」パワースポットとして発信。

活動の効果

- 海岸清掃で「自然ゴミと人工ゴミの分類講座」等を開催。小中高生から大人まで幅広い世代に対し、世界とつながっている海、自然の大切さについて理解を深めた。
- 鳴り石祭りは、メインイベントの「海に沈む夕日」を楽しみに、毎年2,000人ももの来場者で賑わう。子ども達が安心して参加できる思い出づくりのイベントとして定着。
- 鳴り石の浜を「パワースポット」として発信により、お盆の頃の「青い海、青い空、黄色いひまわり」など美しい景観から大型バスが立ち寄るなど観光客の増加に寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の宝「鳴り石の浜」の価値を“楽しみながら”発信し続けることで、地域の子も達にもふるさとの素晴らしさを伝えたい。

住所・電話番号・SNS等

東伯郡琴浦町赤碕1927-1

事務局: 上田啓悟 Tel: 090-3639-7527